

音楽研究会 部会記録					
日時	令和4年3月9日（水） 15：30～16：45				
部会名	鑑賞部会			主任	澤 由美（日吉南小）
参加数	10名 （オンライン）	司会	澤 由美（日吉南小）	記録	岩清水 幸恵（豊岡小）

鑑賞部会テーマ

音楽作品や演奏表現のよさ、美しさを自ら感じ取り、共に考え、聴き味わう鑑賞活動

○研究の成果と今後の課題

提案：澤 由美（日吉南小）

研究内容① 音楽を形づくっている要素を視点にした楽曲分析、教材研究

楽曲を教材化する視点を持ち、分析することの重要性がより明確になった。

身につけさせたい資質・能力と「思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素」を関連付けて、中心に扱う要素を焦点化した。研究授業では「強弱」「速度」の変化を手がかりにして、楽曲の特徴をとらえる子どもたちの姿が見られた。しかし、音楽的な見方・考え方を働かせ、「自分にとっての価値」を見いだしている姿については、課題が残ったと言える。

今後は、一人ひとりの子どもが感じ取ったことと音楽を形づくっている要素をどのように関連づけるかを想定した上で、楽曲分析、教材研究をしていく必要があると考えている。

それぞれの要素が関わり合い、楽曲の特徴やよさを醸し出しているという視点を持ち、それぞれの要素のどんな特徴を捉えさせたいのかについて研究を進めたい。また、1年間及び各学年の系統性の視点を持ち、主題全体の中で、計画的に焦点化することが必要であると考えている。

研究内容② 教師の手立て、働きかけなどについての研究。

教師と子どもたち、子どもたち同士でのやりとりや対話の中で学びが深まる発問や手立てについて、研究をすすめてきた。

・授業で効果的に「楽曲を聴く」

子どもたちの実態や思考の流れに沿った聴き方を計画し、子どもたちが感じたこと、聴き取ったことをもとに曲のよさや楽しさを共有したことで、子どもたち自らが、曲のよさや楽しさを見つけていると実感できる授業展開ができた。

・ペアやグループでの学習

本時の学びがどのように深まっていくのかを考え、授業内のどの段階に取り入れるかにより、効果が変わる。また、子どもたち同士のやりとりが効果的になる発問、助言、声かけをすることの難しさが見えた。

・発問

学習したことが子どもたちの記述や発言などに表れるまとめになるよう、発問や授業展開を部会内で検討していきたい。発問の目的を明確にし、有効な発問になるよう、子どもたちの発言や姿から考えたい。

次年度に向けて

～子どもたちの感じ取ったこと、聴き取ったこと、子どもたちの言葉をもとにした授業展開～

次年度も、「聴き味わう子どもの姿」を求め、子どもたちの感じ取ったこと聴き取ったこと、子どもたちの言葉をもとにした授業展開について、研究を進める。

楽曲分析、教材研究をもとに、発問や助言の内容を精選し、教師と子どもたち、子どもたち同士のやりとりや対話を生む発問や手立てについて、検証していく。

また、教師の発問や手立てや働きかけについては、「なぜ、そうするのか？」「なぜ、そうしたいと考えたのか？」「そもそもなぜ、それをするのか？」といった『なぜ？』の視点を意識して、目的を明確にし、部会内で共有して研究を進める。

鑑賞活動における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を、実践提案等をもとに進めていきたい

○授業実践の情報交換

<魔笛>

- ・映像を見せて、本物を味わわせることをねらっている。
- ・あらすじを知らせたり、絵本で物語をとらえさせたりする。
- ・「パパパ・・・」に焦点を当て、かけ合い等をとらえさせている。
- ・3曲にしぼって、それぞれの特徴をとらえさせている。

<運命>

- ・スコアやベートーベンの音楽新聞などを用意している。
- ・指揮者による演奏の違いをとらえさせるために、さまざまな音源を用意し、比較して聴かせている。
- ・梯さんのDVDを用いて、ベートーベンの人生にもふれている。
- ・座談会のような形で、この指揮者のこの演奏が気に入っている、と語るような形式をとっている。

<ます>

- ・想像したこととその根拠を同時にとらえる活動を行っている。
- ・変奏曲を聴き味わうためには、3時間を費やした。
- ・どの教材でも、楽曲を大きくとらえさせる、詳細にとらえさせる、とねらいが大きく分けられると感じている。ねらいにより、学習活動の方向性は大きく異なってくる。
- ・子どもたちの実態により、感受と知覚の取り扱い方を吟味し、同じ学習活動の中で、両方扱うようにした。
- ・きらきら星変奏曲を参考教材として、変奏曲の形式についてとらえるようにした。
- ・それぞれの変奏にタイトルをつけることにより、より変化を楽しみながら活動ができた。